

人権だより

気をつけて行ってらっしゃーい



わたしの居場所



あったか 写真展



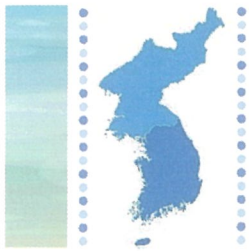
たくさん食べてね!



しゃぼん玉 楽しいな!

令和6年1月1日の能登半島地震でお亡くなりになられた方々のご冥福を謹んで
お祈りするとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

また被災地での救助活動・復旧作業に従事されている方に深く敬意を表します。
皆様がいつもの生活に戻られますよう、一日も早い復興をお祈り申し上げます。



半島の文化を未来へ

五個荘地区人権のまちづくり協議会会長 河村 栄一

9月23日、市人権のまちづくり協議会から大津市にある滋賀朝鮮初級学校・付属幼児班での研修に参加しました。

朝鮮半島の国名は古くは李氏朝鮮、その後大韓帝国でありましたが、第2次世界大戦後、大韓民国(韓国)と朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の南北に分断されました。

2019年時点で日本に居住する韓国籍、朝鮮籍(北朝鮮籍は存在しません)の保有者は約48万人で、内訳は韓国籍が約45万人、朝鮮籍が約3万人です。

韓国政府の要請もあって、1950年に日本政府は本人からの申し出があれば国籍を「朝鮮」から「韓国」に換えられるようになったのが韓国籍の始まりです。

全国ほとんどの県にある朝鮮学校は朝鮮半島にルーツを持つ、在日韓国・朝鮮人の子どもたちが朝鮮語や民族の歴史、文化などを学ぶ学校です。また、日本の公立学校と同レベルの日本語、算数、社会、理科なども学びます。児童たちは自らのルーツを知り、[※]アイデンティティを肯定的に育み、自尊心を高め地域社会で日本人たちと共に生きる人へと育っていきます。ラグビー日本代表の李承信(リスンシン)さん(23歳、神戸市出身)は全国の朝鮮高校出身者で初の代表に選ばれ、ワールドカップ出場を果たしました。

滋賀朝鮮初級学校創立から63年、現在は4世、

5世が学校に通い「在日韓国・朝鮮人」としてのアイデンティティについて学ぶ貴重な場となっています。金隆泰(キムリュンテ)校長は京都生まれの3世、祖父の出身は釜山の近く。自分の故郷はどこかと疑問を抱いておられます。3歳で日本語を話すようになり、滋賀朝鮮初級学校3年生のときにハングルが話せるようになり、祖国の文化やソウル(心の奥底にある自分の本質)を学んだときは感激を覚えたそうです。

全国63校の朝鮮学校にとって、目下最大の課題は園児、児童、生徒数の減少(滋賀朝鮮初級学校・付属幼児班は2023年度生徒数19人)と資金繰りだそうです。緊迫した日朝関係が一因となり、両国いずれからも支援が得られず、多くの学校が閉鎖の危機に追い込まれているとのこと。

日本における部落差別をはじめ少数者に対する差別同様、在日韓国・朝鮮人は民族的マイノリティとして、長らく日本社会から疎外されてきました。彼らの故郷は日本であり、心の故郷は朝鮮半島にあるのでしょうか。日本の学校へ行くとコリアン文化を教えてくれません。子どもたちにはコリアン文化を持った子に育ってほしいという強い親の願いがあります。同じ日本に住む者としてお互いの文化を尊重し合い、差別のない社会の実現を望みたいものです。

※アイデンティティ：他者から社会から認められているという感覚



表紙のことば

第16回あったか写真展を今年も世界人権デーに合せて令和5年11月25日(土)~12月8日(金)まで五個荘コミュニティセンターで開催しました。

応募いただきました皆様、ありがとうございました。

表紙に、立岡暁さん(左上)、辻希恵さん(右上)、小河原成子さん(左下)、黒塚敬子さん(右下)の作品を掲載しました。

令和5年度役員

会 長	河村 栄一
副 会 長	大橋 保治 (啓発部長)
”	寺村 茂和 (広報部長)
”	溝江 透 (研修部会)
会 計	小林 雅彦
監 事	布施 太嘉幸
監 事	数田 早希子
事務局長	細居 悦子

令和5年度人権のまちづくり町別懇談会



今年度の町別懇談会は、全27自治会で開催され、うち3自治会の報告をします。

歌を通して命の尊さ、人権を学ぶ

五個荘七里町人権のまちづくり推進員

河上 博直 河上 暁美

11月25日、26人が参加のもと、今年もバンド「しいずん」さんをお呼びして、歌を通して命の尊さ、人権の尊重を学ぶをテーマに町別懇談会を開催しました。

人権問題などを題材にした歌をその歌詞に込められたエピソードやメッセージを解説を織り交ぜ

ながら時間の許す限り歌っていただき、人権とは決して難しいものではなく、身近で大切

なもの、思いやりの心によって守られるものであると改めて命の尊さを考えさせられるよい機会となりました。参加者も口ずさんだり、頷いたり、この人権コンサートで感じられたことを大切にしていければと思いました。



高齢者の人権

五個荘和田町人権のまちづくり推進員

谷 圭子 下坂 陽子

人権啓発DVD「ここから歩き始める～認知症を共に生きる」を視聴しました。高齢者の幸せと尊厳を守るにはどうしたら良いのか、高齢者の意欲や能力をどのようにして生かしていくか、家族や地域でどのようにして支えていくかを考えさせら

れる内容でした。作中「子供叱るな来た道だもの 年寄り笑うな行く道だもの」という言葉を言っておられ、とても印象に残りました。誰もが認知症になる可能性がありますし、周囲の理解と協力が大切だと思いました。高齢者のことを勝手に決めつけてしまわず正しく理解するよう努めないといけないと思いました。改めて人権について考える良い機会となりました。

町内の高齢化を考える

五個荘山本町貴船人権のまちづくり推進員

岡田 正博 篠原 玲子

11月19日、14人参加のもと4年ぶりの町別懇談会開催となりました。

人権啓発DVD「はじめて認知症の人に接するあなたへ」を視聴し、意見交換をしました。DVDの内容は、認知症の症状から周りの人の心構えや具体的な応対方法まで、とても分かりやすく示されてい

て、大変勉強になりました。

現在、貴船は高齢世帯の少ない自治会ですが、新興住宅地であるため、これから一気に高齢化へ突入していきます。

今回学んだ「認知症」だけでなく、これから起こりうるさまざまな問題を自分ごととして捉え、住民みんなで考えていかなければならないと、改めて感じました。



考えを変えるより仕組みを変える

第2回人権を考える研修会

悪気はないけど差別はある
～個人の意識と社会の現実～



12月8日(金)、栗本敦子さん(大阪facilitator's LABO)を招き人権研修を行いました。

皆さんはジェンダーフリーという言葉を見聞きされたことがあるかと思います。例えば女医、女流作家、女子アナなど「女」を当てた表現や老女、人妻、未亡人といった立場を表した言葉などは古来より男中心の社会の名残がある証しです。

1980年代頃までアメリカのオーケストラの団員のうち女性は5%(男性の演奏家が優位?)、そこでオーディションの際、審査員の間には演奏者が女性か男性かわからな

いようにスクリーンを挟んだところ一次審査を通過した女性が50%以上いたそうです。ちなみに現在の女性割合は40%以上で白人以外も多くなっているそうです。「悪気はないけど差別はある」の代表例でしょう。

また、ジェンダーギャップについてはどうでしょう。2003年に男女共同参画推進本部が定めた2020年までに女性の指導的地位を少なくとも30%にするという数値目標は未だ達成されていません。(日本のジェンダーギャップ指数は2023年で146カ国中125位です)戦後は女性への参政権が認められ、近年では男女雇用機会均等で平等が当たり前となってきました。更なる女性の活躍の場を増やすにはどうすればいいのでしょうか。(会長 河村 栄一)

中学生からの小さなおくりもの

毎年行われている五個荘地区図書室・図書館連携事業ノーメディアチャレンジ企画で、令和5年度は五個荘図書館と五個荘中学校の創作部の生徒さんが製作された、しおりにもなる“オリジナルお守り”が11月13日～12月3日の間、図書館で配布されました。

図書室・図書館を利用した生徒さんや地域の方が図書館に関するクイズを解いて本を借りると、好きなお守りを一つもらえるという企画で、スマホやネット環境から離れて読書に親しんでもらうことを目的に行われました。

折り紙で作られたお守りは、色柄、種類も

様々で、中には可愛いメッセージも入っており丁寧に作られていました。きっとこのお守りを手にした人は、小さな幸せをいただいたように、心が温かくなったのではないのでしょうか。

人の幸せを願う思いやりの心の詰まったお守りと、ノーメディア・チャレンジ企画の主旨から、人と人とのコミュニケーションや会話の大切さに改めて気付くことができました。

(辻 希恵)



ぬくもりメッセージ 2023

東近江市内の小・中学生、一般から応募のあった
メッセージ404・標語8,434・ポスター1,331作品のうち、
五個荘地区から最優秀賞と優秀賞に選ばれた作品を紹介します。(敬称略)

ポスター

最優秀賞

「世界はカラフル」

北村 ^{みさと}美郷

五個荘中学校2年



標語

優秀賞

「友だちの ぬくもり えがお たからもの」

川島 ^{すい}穂 五個荘小学校3年

優秀賞

「あいさつは 心を開く かぎになる」

中村 ^{まゆ}真優 五個荘小学校6年

優秀賞

「なぜ差別 自分と違う それだけで」

松井 ^{あおい}葵 五個荘中学校3年

メッセージ

五個荘地区は該当ありませんでした

スマホ時代の子どもたちを被害者にも加害者にもしない



東近江市女性のつどい

1月20日、ソーシャルメディア研究会の竹内義博さんを講師に迎え、今のネットの特性や問題などをお話し頂きました。

※
スマホ等の年齢別使用割合は？ 0歳:11.6%、3歳:62.6%、7歳:83.9%。所持率は？ 小1:30%、小6:54%、中3:90%、高校生:98%。ネット接続時間 4時間以内が小1:68%、高3:60%。4時間以上が小1:6.6%、高3:34%という数字が10万人以上のアンケート結果で明らかになりました。もはや、いつから持たせるかといった議論は過去の話で、使い方がどうあるべきかにシフトする必要があります。機械対策としてフィルタ

リング、スクリーンタイムをかける。人間対策として親子が向かい合って人権モラル、マナー教育など一緒にルール作りをし、大人の常識、子どもの常識を理解し合うことが必要です。

スマホはもはや生活と切り離せないモノ。避けて通れない話ですね。スマホの問題が心の問題にも発展します。親子が話し合って作ったルールは守られると言われています。大人と子どもが一緒になり地域全体で考えることが重要とお話しされていました。

(会長 河村 栄一)

※ 親があやし道具として使用の場合を含む

その日に会った感動に生きたい

福祉・人権のつどい

歌には言葉や容姿を通して人の心を映し出す作用がある、耳で聞くこと、目で見えるもの。そして自らの人生を振り返る時間として、また、これから送る人生の糧とすることもできる。

そんな機会が訪れたら…。ちめいどの雄介さんによる、コンサートが2月3日午後から五個荘コミュニティセンター大ホールにて開催されました。「福祉・人権のつどい」として開催されたコンサートに参加して、歌を通して想いにふける時間をいただきました。「大切に今を生きよう 自分は不自由だが 不幸ではない 幸せです」、筋ジストロフィーの病気で入院生活を送る友人を見舞いに



行き、作られた歌、どこかに生かされた自分がある。つい、昔投げかけられた言葉を思い出しました。『うれしいときはうれしいと言える、また、悲しいときは悲しいと言える、さみしいときはさみしいと言える、そんな人でありたい、そう思える人でいてほしい。きれいな景色を見て、きれいだねと言えば、そうだね、きれいだねと言える二人、そんな二人でありたい、あなたはなぜ言えないの？』答えようのなかった言葉の投げかけに、今なら答えられそうなそんな気がしました。

行き、作られた歌、どこかに生かされた自分がある。

つい、昔投げかけられた言葉を思い出しました。

『うれしいときはうれしいと言える、また、悲しいときは悲しいと言える、さみしいときはさみしいと言える、そんな人でありたい、そう思える人でいてほしい。きれいな景色を見て、きれいだねと言えば、そうだね、きれいだねと言える二人、そんな二人でありたい、あなたはなぜ言えないの？』答えようのなかった言葉の投げかけに、今なら答えられそうなそんな気がしました。

私たちは当たり前のように生きていますが、今に感謝しているでしょうか？喜び、悲しみ、さみしさをあるがまま素直に受け入れられているかどうか。この日の曲、歌、語りを聞いて感じた気持ち、感動！この感動の輪が私たちを取り巻くすべての人たちに広まることを願っています。

(広報部 西 義一)

編集後記

本年度は新型コロナ禍が終息を迎え、人々が集まってイベントや研修などを開催できるようになりました。

地区人権のまちづくり協議会の事業もここ数年は町別懇談会をアンケートに替えたり、研修会を中止や規模を縮小したりと感染対策に苦慮していただきました。コロナ禍では人々の噂から疑心暗鬼に陥りやすい状況が生まれる中、ここで町別懇談会や研修会が途絶えたら人権啓発や推進は元に戻れるか不安でした。しかし町別懇談会を全27自治会で開催していただき、特にDVD鑑賞

後に話し合いを持っていただいた自治会も多くみられました。研修会や福祉・人権のつどいでは県外から講師を呼ぶこともでき、多くの方々にご参加をいただいて計画した事業すべてを終えることができました。

引き続き、みなさんの豊かな心がさらに高められ、人権文化の花咲くまちづくりを推進し、安心安全な五個荘をともに目指しましょう。



(会長 河村 栄一)